

ISO 14001:2015 における主な変更点

戦略的な環境管理

組織の戦略的計画プロセスにおける環境管理の重要性が増している。組織及び環境の双方への便益のため、機会を特定し活用するために、組織の状況の理解に関する新しい要求事項が取り入れられている。特に、利害関係者のニーズ及び期待（規制上の要求事項を含む。）、組織に影響を与える又は組織からの影響を受ける地方・地域・グローバル規模の環境状況に関連する課題又は変化する状況に、焦点が当てられている。優先事項と特定された場合には、有害なリスクの緩和又は有益な機会の探求のための活動を、環境マネジメントシステムの運用計画に統合することとなる。

リーダーシップ

システムの成功を確実にするために、リーダーシップの役割をもつ者に対して組織内の環境管理を促進することについての特定の責任を割り当てる箇条が新たに追加された。

環境保護

組織に対する期待は、組織の状況に応じて害及び劣化から環境を保護するための事前対応的（proactive）なイニシアチブにコミットすることにまで拡大した。改正版のテキストには、“環境の保護”は定義されていないが、環境の保護が、汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性及び生態系の保護等を含み得るという注記が入っている。

環境パフォーマンス

継続的改善に関して、マネジメントシステムの改善から環境パフォーマンスの改善に重点が移っている。組織の方針のコミットメントに従って、組織は、該当する場合には、組織が設定したレベルにまで、排出、排水及び廃棄を低減させることとなる。

ライフサイクルの視点

調達された物品及びサービスに関連する環境側面の管理に関する現在の要求事項に加えて、組織は、組織が管理する及び影響を及ぼす範囲を、ライフサイクルの各段階（すなわち、原材料の取得、設計、生産、輸送／配送、使用、使用後の処理及び最終処分）に対応するために、製品の設計及び開発に関連する環境影響にまで拡張する必要がでてくる。ただし、このことは、ライフサイクル評価を行うことの要求事項を意味してはいない。

外部委託したプロセス

組織は、外部委託したプロセスを管理し、又はそれらのプロセスに影響を及ぼす必要がある。

コミュニケーション

コミュニケーション戦略の策定が、外部及び内部コミュニケーションの双方に同等の比重で追加された。これには、矛盾がなく一貫し、信頼のおける情報についてのコミュニケーションに関する要求事項、及び、組織の管理下で働く人々が環境マネジメントシステムの改善提案を行う仕組みを確立することに関する要求事項が含まれている。外部にコミュニケーションを行うか否かは組織によって決定されるが、その決定を行うに当たっては、規制当局及び他の利害関係者の期待によって求められる情報の報告を考慮に入れる必要がある。

文書類

マネジメントシステムの運営のためのコンピューター及びクラウド型システムの進化を反映して、改正版では、“文書”及び“記録”に代わって、“文書化した情報”という用語を導入している。ISO 9001とも整合して、組織は、有効なプロセス管理を確実にするために、どのような時に“手順”が必要かを決定する自由がある。

ISO のマネジメントシステムのための共通の枠組み

ISO 14001:2015 は、ISO マネジメントシステム規格 (MSS) のための新たな共通の枠組みである ISO のマネジメントシステム規格のための新しい上位構造 (HLS) を用いている。この新たな枠組みは、複数の ISO マネジメントシステム規格を実施する利用者の便益のために作成されたもので、どのようなマネジメントシステム規格にも適用可能である。これによって、分野固有な柔軟性を与えつつ、ISO マネジメントシステム規格間の両立性が可能となる。

ISO 14001:2015 及び関連規格に関する更なる情報については、ISO/TC 207/SC 1 ウェブサイト (<https://committee.iso.org/tc207sc1>) を参照してください。

※本文書に関するお問い合わせにつきましては、以下の連絡先までお願いいたします。

一般財団法人日本規格協会 国際標準化ユニット 国際規格開発グループ
マネジメント規格チーム

[E-mail: cstd@jsa.or.jp](mailto:cstd@jsa.or.jp)